

第3回 S&B 領域班会議・参加記：3回目に見えてきたこと

慶應義塾大学医学部生理学 特任助教
鈴木邦道

この S&B 領域班会議には第1回から今回の第3回まで参加させていただき、普段の研究室では得られない知識・交流・発見をもたらす貴重な機会となっています。こうした素晴らしい機会を与えてくださったラボヘッドの柚崎通介先生、ならびに領域代表の榎本和生先生をはじめとするオーガナイズされた先生方に感謝申し上げます。

領域会議の第1回では計画研究班員が、第2回では公募研究班員が各々の研究背景・実績と目指す方向をプレゼンし、互いの研究やひととなりを知る機会でした。ラボごとに、そして人ごとに興味の対象や実験の方向性がまるで異なっていて、その多様性は大変勉強になり、一方で、多様な研究テーマの中でも「脳でのスクラップ&ビルド現象」という共通原理をいかに解明するか、という理念は共有されており、多くの連携や闊達な意見交換に参加できたのがとても有意義でした。

さて、それから1年余りたった今回の第3回領域班会議においては、その研究がどう展開し、どんな発見を得たかという、プロGRESSを知る機会となりました。学会などで研究成果を聞くだけでは、他の研究室ではどのような目的意識で研究を始め、どう進捗していくか、という研究の実際、スピード感や考え方はなかなか知り得ないのですが、今回の班会議に参加させていただいたことで、そのプロGRESS過程を知ることができ大変勉強になりました。技術革新や予想通りの結果を得ていたり、新しい発見から仮説を覆したり、ますます謎が深まる現象を見出していたり、と大変に興味深かったです。物事がどのように進んでいくかを知ると、それは長編の物語を読んでいるように内容に一層引き込まれ、結果の考察や今後の展開が気になるので、ポスター発表や懇親会のときにはいつも以上の議論が捗ったように思います。お互いのストーリーを知れば、会議だけでは話し足りなくなるのですが、会議の休憩時間、温泉や食事、エクササイズで山歩きしているときなど、多くの人と話せる機会を設けていただけたので、とても充実した時間を過ごすことができました。

私は、学会に参加・発表する際にはちょっとした目標を立てるようにしています。「同年代の知り合いを増やそう」とか「あの偉い先生に質問をしよう」とか「発表で笑いを取って覚えてもらおう」とか。今回は「多くのPIの先生と話をする」を目標に頑張って話しかけるように努力しました。3回目の班会議ですので、ただ顔を見知っているだけの関係でなく、互いの研究や人生観、科学思想などもう少し深い部分まで共有できた気がして、この世界で生きていく励みになりました。この領域を通して得たつながりを大事にしていきたいと思っています。